

B) 場所を限定して局所的な防除を進める種類

オウゴンカズラ

サトイモ科 *Epipremnum aureum*

原産地：ソロモン諸島

鹿児島県条例：指定外来動植物

特徴

ポトスの名で知られるサトイモ科のつる植物。茎から付着根と呼ばれる根を伸ばして、樹木に張り付く。大きく成長すると長さ 70cm ほどの葉をつける。

葉：大きい株の葉は長さ 50～70cm、幅 20～40cm ほどになる。葉には淡い黄色の模様が不規則に入る。

花：ほとんど開花・結実した様子を見ることはない。

繁殖：地面を這った茎が根を張り、クローンで分布を拡大する。



影響：樹冠を覆ってしまうため、林床の植物等の生育環境を改変してしまうことが懸念される。また、大型で非常に目立つ種であることから、景観を一変してしまうことも影響の一つである。

侵入状況：ポトスの名で一般に流通している種であることから、庭等で栽培している人も多い。ただし、奄美大島の気候下では急激に成長してしまうため、手に負えなくなる他、伐採した茎を野外に捨てることで分布が拡大する。林道沿いの草捨て場などを中心に森林域でも侵入が確認されている。

対策状況：未だ具体的な対策は実施できていない。

防除のコツ：種子繁殖はほとんどしないため、駆除の時期は問わない。茎の断片からも生育するため、丁寧な除去作業が求められる。

リンク : 鹿児島県外来種駆除対応マニュアル ポトス(オウゴンカズラ)

https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/gairai/documents/72338_20190520155143-1.pdf